

徳島県係留 施設検討会

第2回 令和7年11月6日



1. 放置艇対策の取り組み状況
2. 第1回の概要
3. 係留施設の候補地について

1. 放置艇対策の取り組み状況

「規制・予防措置」、「係留施設の確保」を両輪とする対策に取り組む

⇒「規制・予防措置強化」の一環として「放置艇・合同パトロール」を実施

R7.9.1「放置艇・合同パトロール」実施内容

【趣 旨】

- ・船舶所有者の責任意識の醸成
 - ・地域の課題とする県民への啓発
 - ・新たな放置艇発生防止
- を目的とし合同パトロールを実施

【①実施日時】

- ・令和7年9月1日（金）

【②実施箇所】

- ・県南部（橘港（答島地区）、今津漁港）

【③参加機関】

- ・国土交通省 ・海上保安庁
- ・徳島県警察 ・徳島県 ・関係漁協

【④実施内容】

- ・陸域からのパトロール実施
- ・「警告文」の貼付及び「口頭指導」
- ・放置艇の記録（写真、船舶番号 など）
- ・「啓発チラシ」の配布



啓発チラシ



警告文



実施状況



実施状況

- ・放置艇の情報について「警察」、「海上保安庁」と情報を共有
- ・計31隻の放置艇に警告文にて指導⇒直後に6隻が許可手続き

“今後も継続実施”⇒12月に中央部（ケンチョピア）、北部にて実施予定

2. 第1回の概要

第1回検討会での検討内容 (R7.7.17)

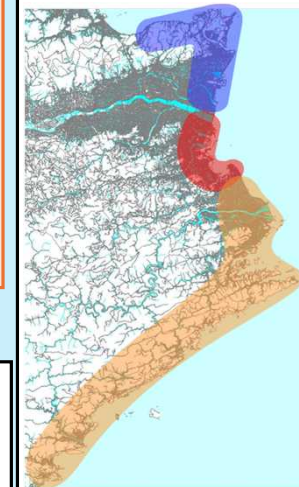
【①検討地域】

- ・都市施設や人口が集中する「県中央部」では、「津波による影響が大きい市街地周辺に数多くの船舶に係船」されている
- ・南海トラフ巨大地震が切迫する中、津波に対し、市街地への影響が相対的に少ないエリアへ船舶を移動する必要がある



「吉野川南岸・小松島地域」について、
先行して「係留施設」の整備を検討 ⇒ 他の地域へ横展開

○県内沿岸を「3分割」し、対策を検討



鳴門・吉野川北岸
地域

吉野川南岸・小松島
地域

阿南・海部地域

【②検討内容】

- ・「ケンチョピア」係留船舶の移動や放置艇解消に向けた係留施設の検討
- ・係留施設と「まちづくり」など周辺開発との連携

○「ケンチョピア」係留船舶の移動

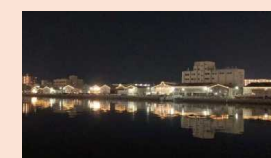
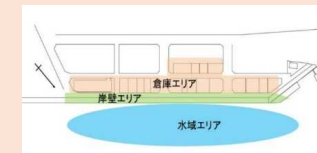
●ケンチョピア



●係留状況



○係留施設と「まちづくり」など周辺開発との連携

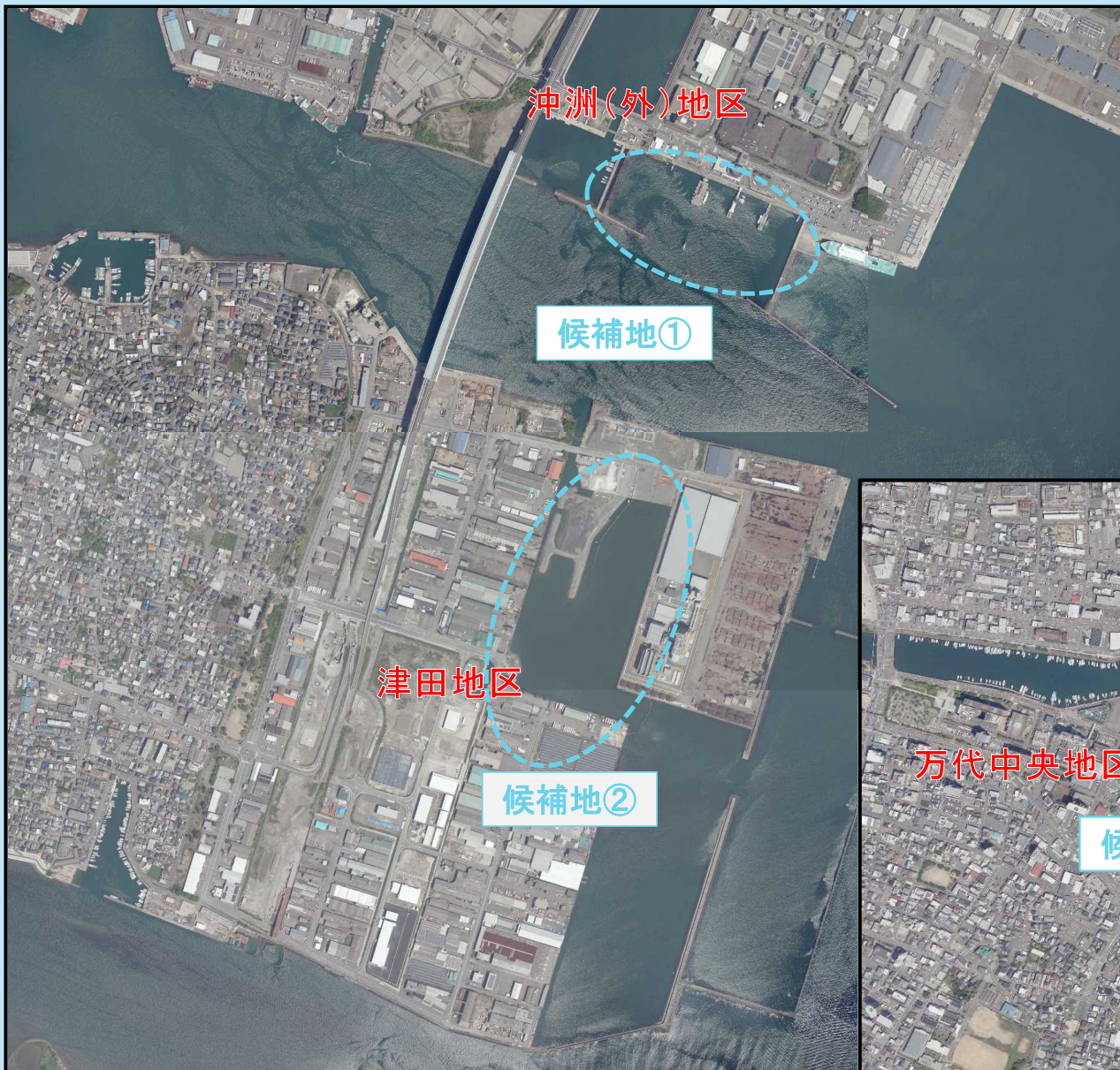


【③検討項目】

- ・係留施設の設置場所、規模、設備、料金等
- ・その他、係留施設の検討に必要な事項

3. 係留施設の候補地について

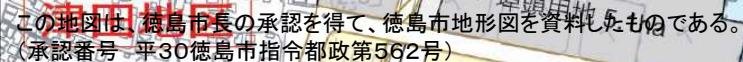
係留施設の候補地として、以下3箇所で検討を行う



- ①沖洲マリンターミナル前
- ②津田第2水面貯木場跡
- ③万代中央埠頭水域

出典: 国土地理院ウェブサイト(<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)
「空中写真データ」(国土地理院)をもとに徳島県作成

①沖洲マリンターミナル前 現況

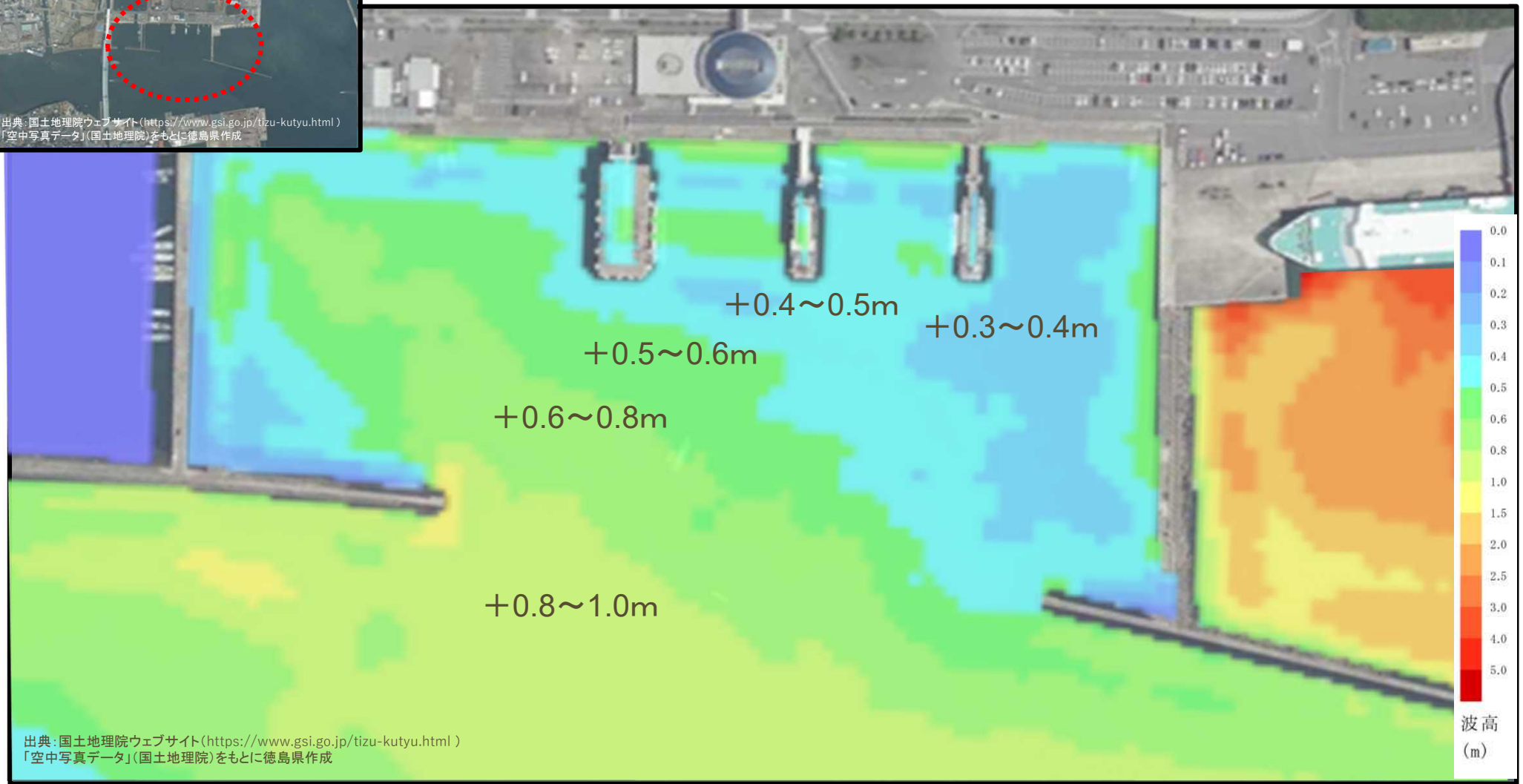


3. 係留施設の候補地について

① 沖洲マリンターミナル前

1. 静 穏 度

許容波高 : 0.50m
平均波高 : 0.49m
最大波高 : 1.64m
許容波高以下水域面積 : 57%

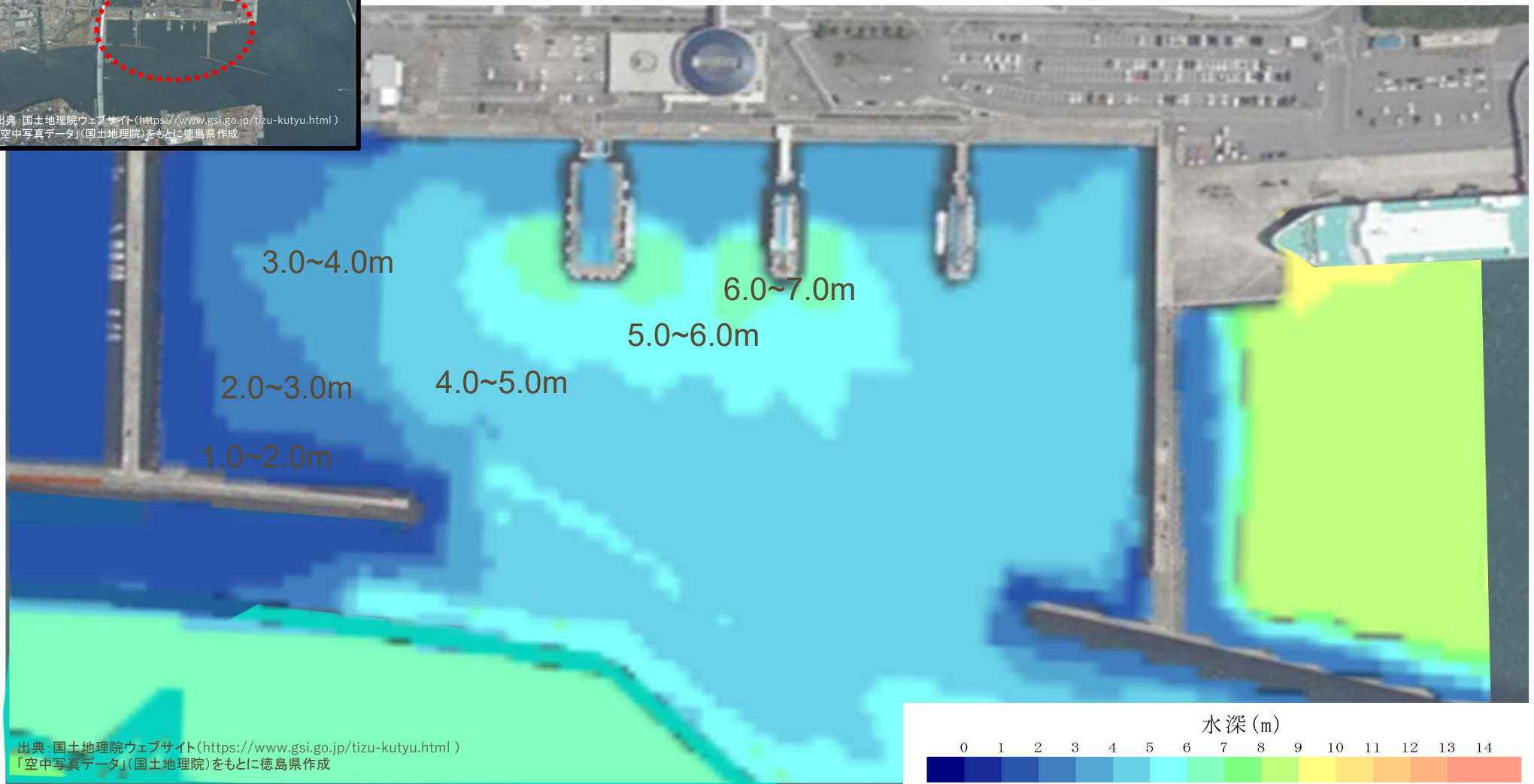


3. 係留施設の候補地について

① 沖洲マリンターミナル前

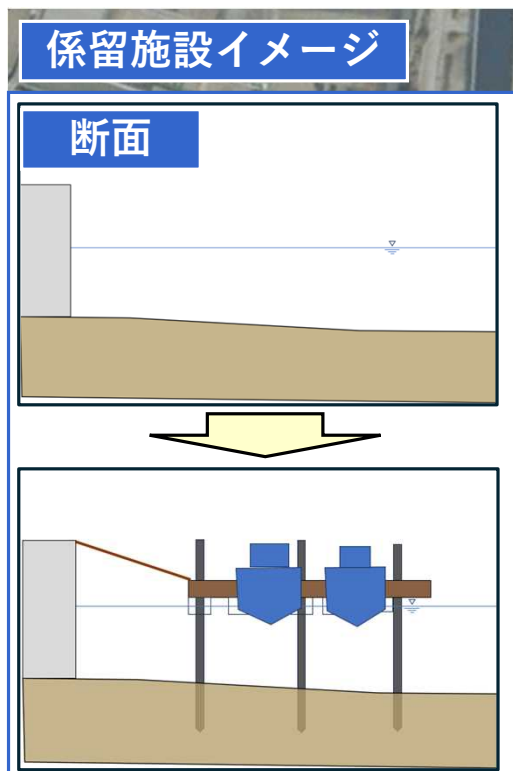
2. 水深

- ・水深は1.0～7.0m、大部分は3.0m以上確保
- ・港内の水深は、防波堤付近以外は十分に確保されている
- ・クルーザーヨット係留に必要な水深が確保されている

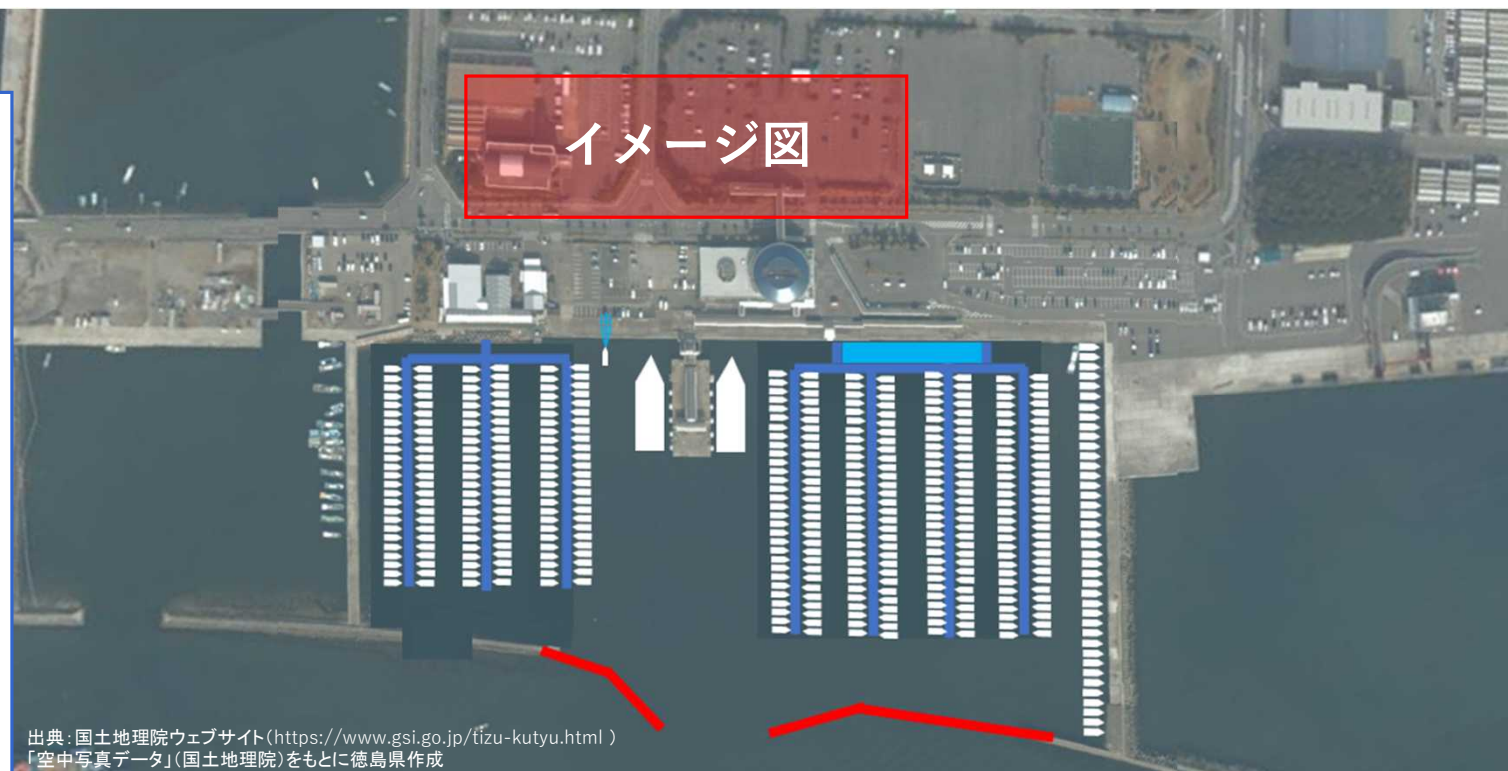


3. 係留施設の候補地について

① 沖洲マリンターミナル前



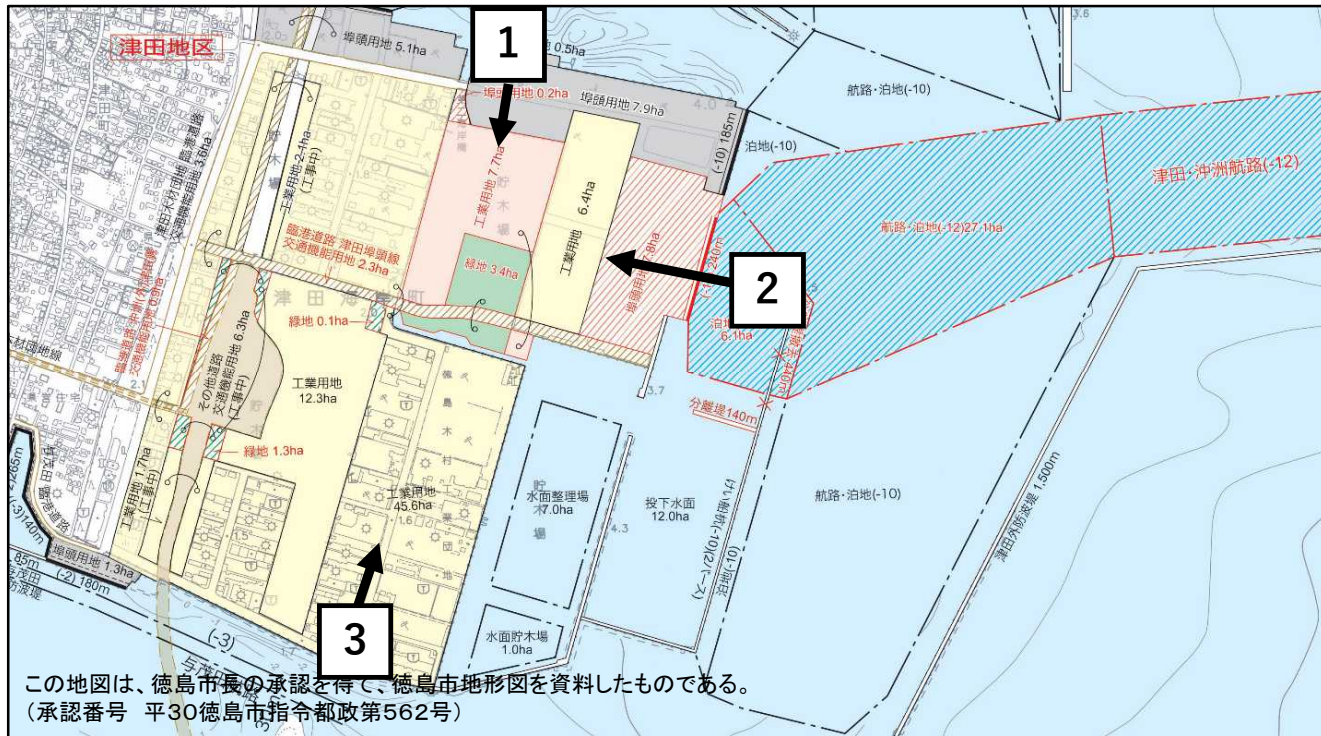
1. 静 穏 度	平常時は問題なし、荒天時には係留困難
2. 水 深	1.0～7.0m
3. 背 後 地	周辺の賑わい施設や開発との連携、マリンターミナルの有効活用により地域活性化が期待できる
4. 収容可能隻数	最大400隻程度
5. 整備条件	現行の港湾計画の変更手続きが必要 静穏度確保に外郭施設が必要



3. 係留施設の候補地について

②津田第2水面貯木場跡 現況

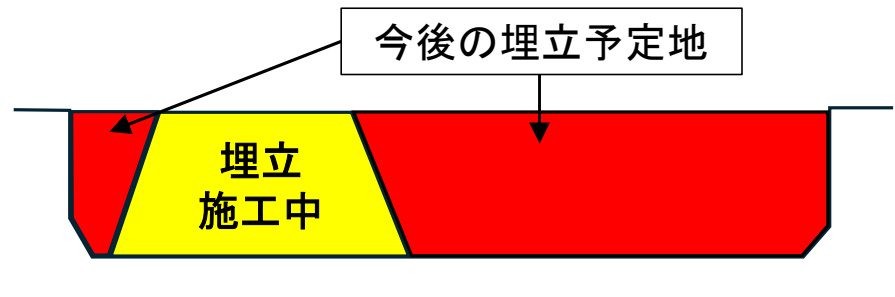
- ・津田第2水面貯木場跡は周辺影響に配慮しつつ埋立て（段階施工）を実施中



3. 係留施設の候補地について

②津田水面貯木場水域 埋立て段階施工について

段階施工の断面イメージ



周辺地盤への影響抑制のため、
沈下状況を監視しつつ段階的な埋め立てを予定
⇒一時的な水域利用は可能

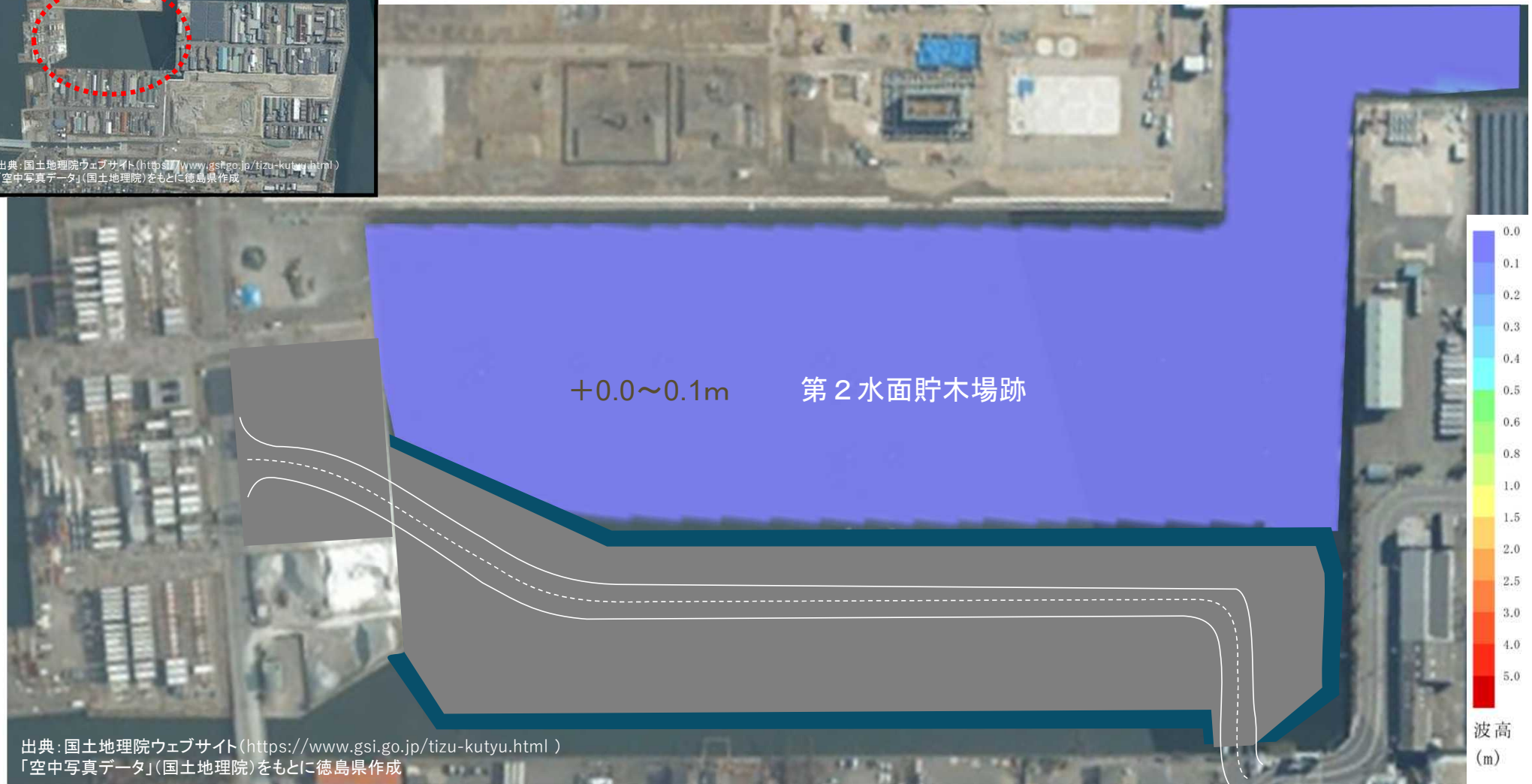


3. 係留施設の候補地について

②津田第2水面貯木場跡

1. 静 穏 度

許容波高 : 0.50m
平均波高 : 0.04m
最大波高 : 0.09m
許容波高以下水域面積 : 100%

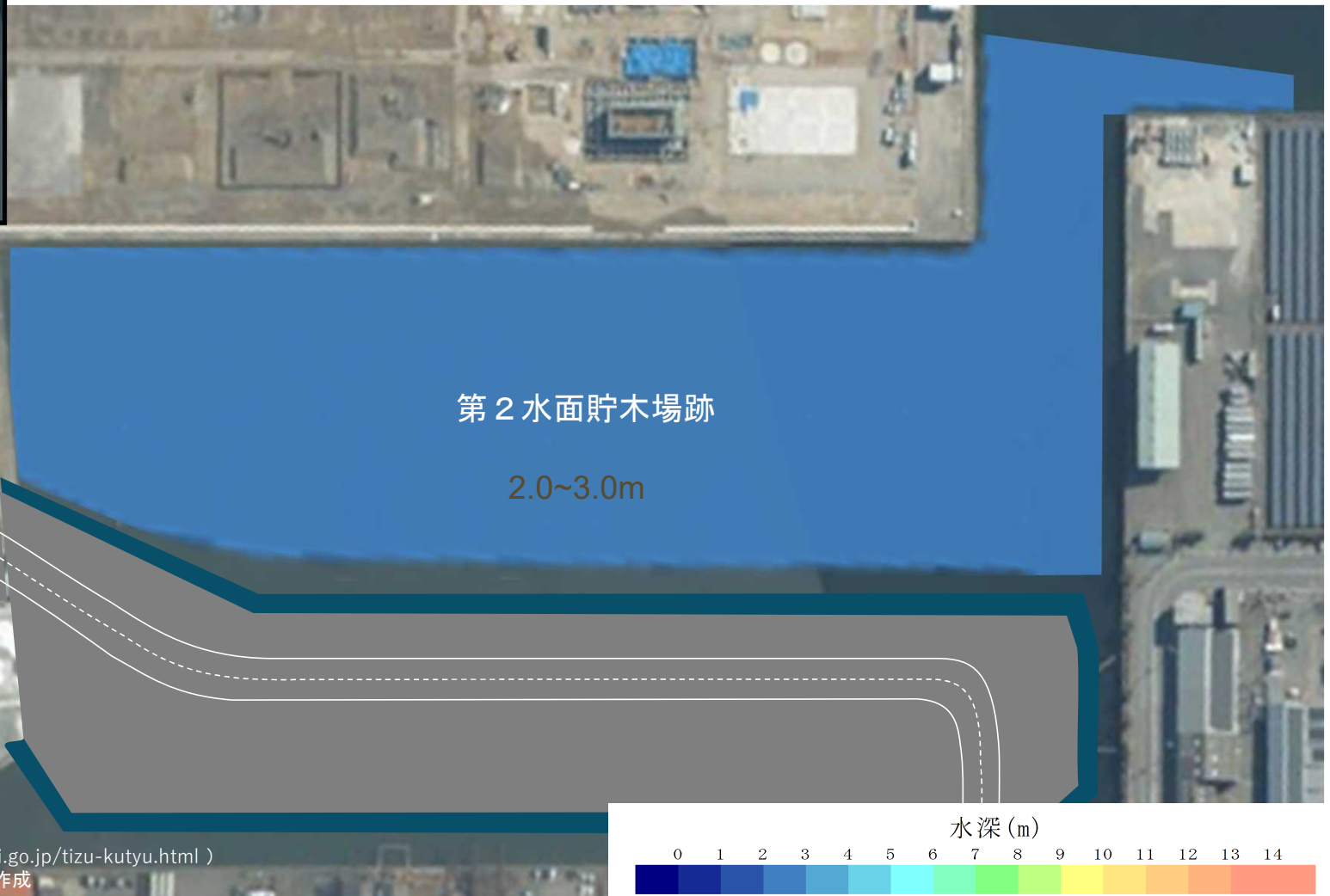


3. 係留施設の候補地について

②津田第2水面貯木場跡

2.水 深

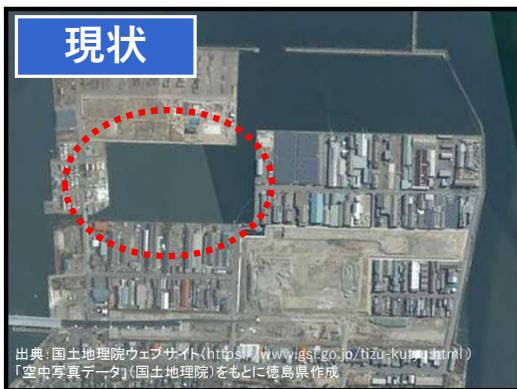
- ・水深は2.0～3.0mを確保できている。



3. 係留施設の候補地について

②津田第2水面貯木場跡

現状



1. 静 穏 度

良好な静穏度を確保

2. 水 深

2.0～3.0m

3. 背 後 地

埋立造成地があり、十分な駐車場確保が可能

4. 収容可能隻数

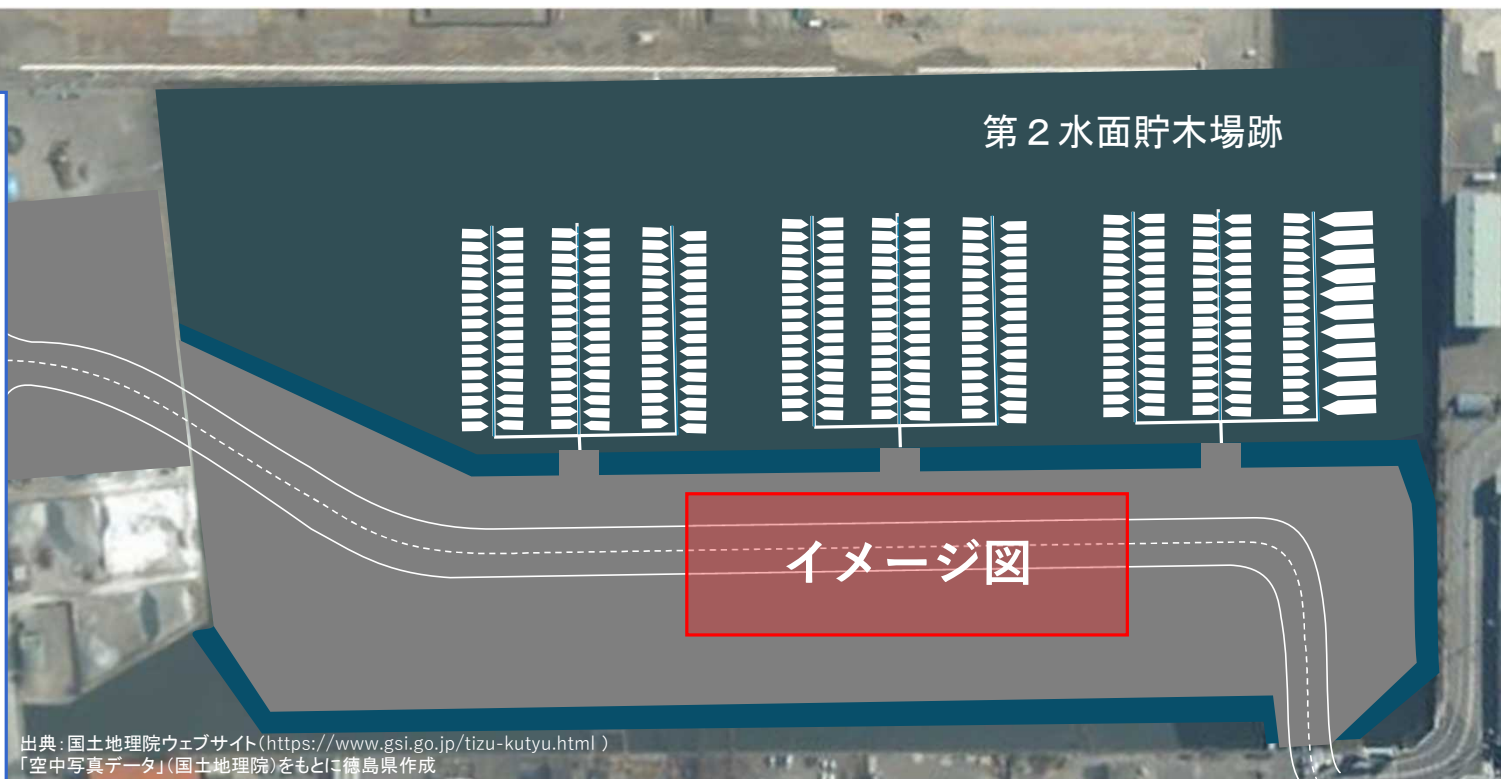
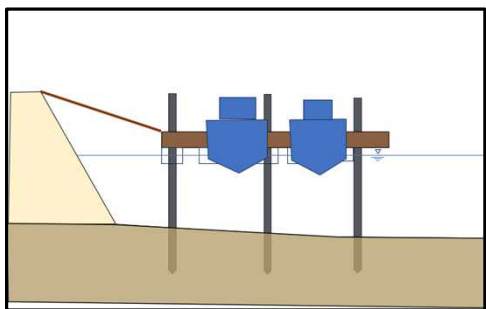
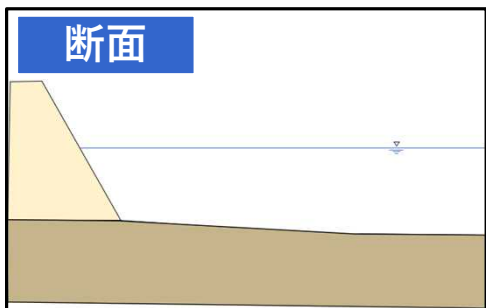
最大300隻程度

5. 整備条件

埋立予定地であるため、恒久的な係留施設は整備不可
暫定的な利用は可能

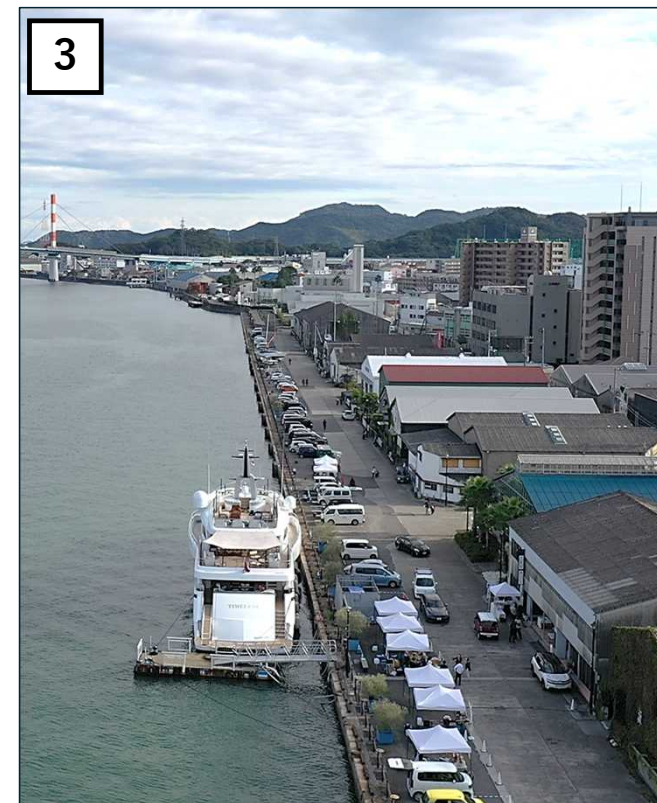
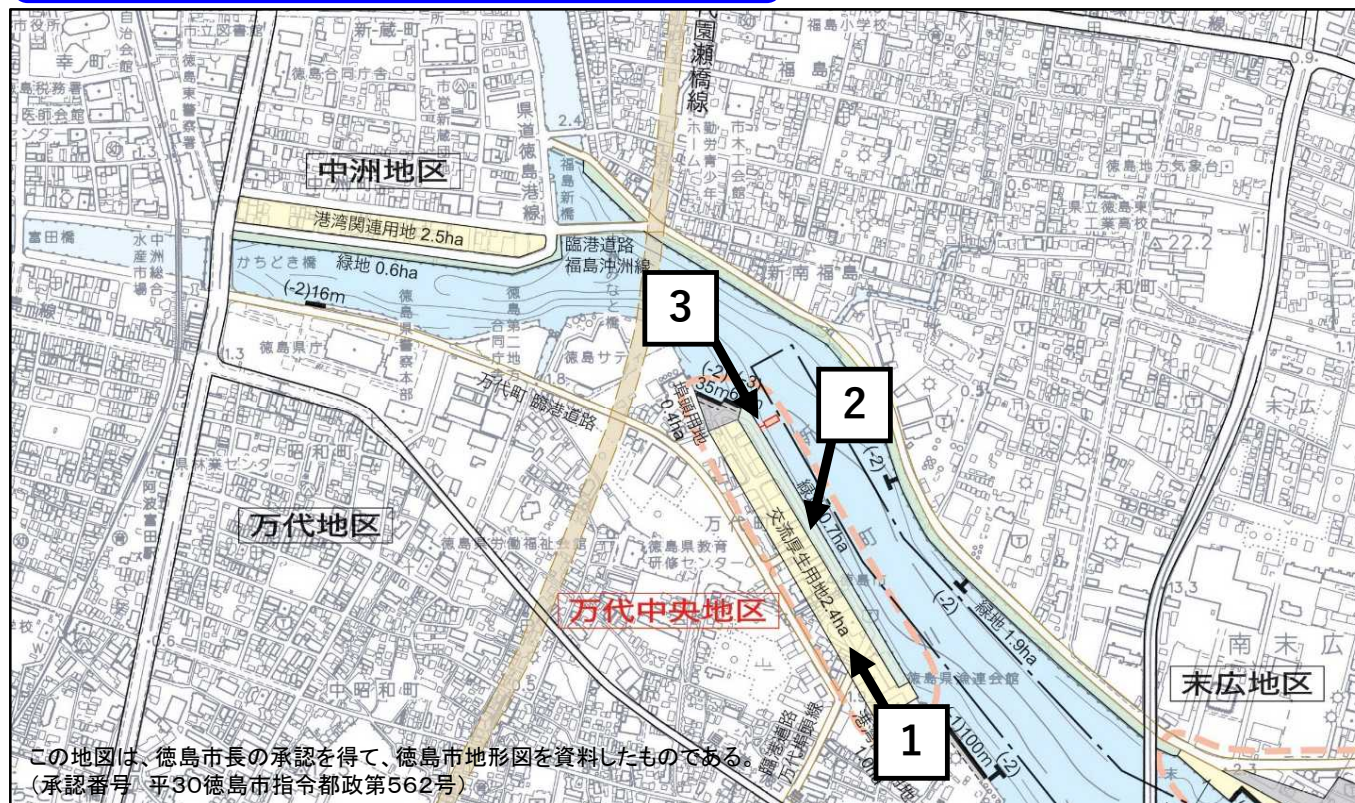
係留施設イメージ

断面



3. 係留施設の候補地について

③万代中央埠頭水域 現況

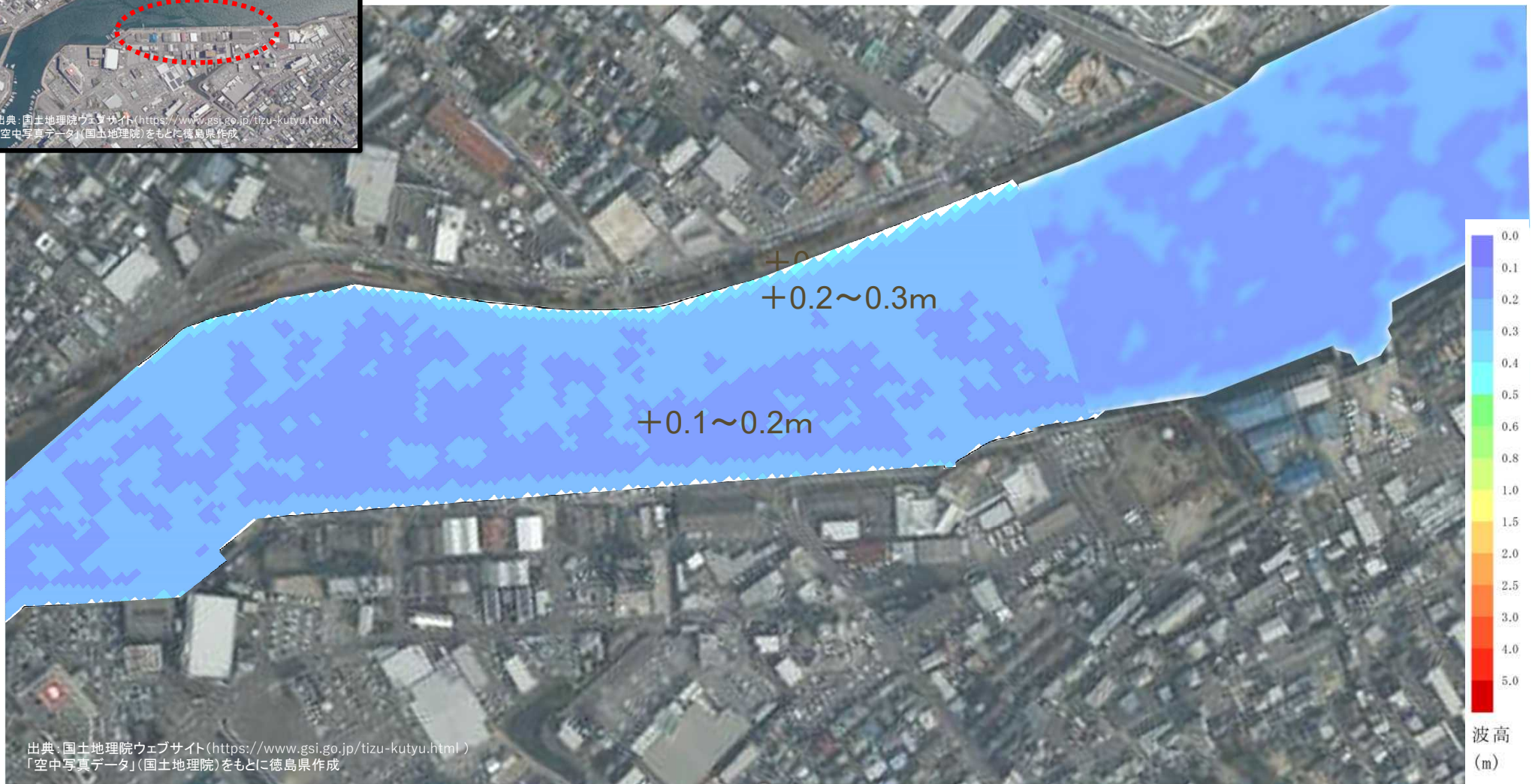
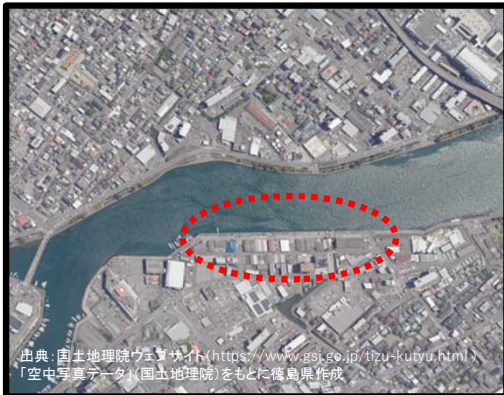


3. 係留施設の候補地について

③万代中央埠頭水域

1. 静 穏 度

許容波高 : 0.50m
平均波高 : 0.21m
最大波高 : 0.30m
許容波高以下水域面積 : 100%

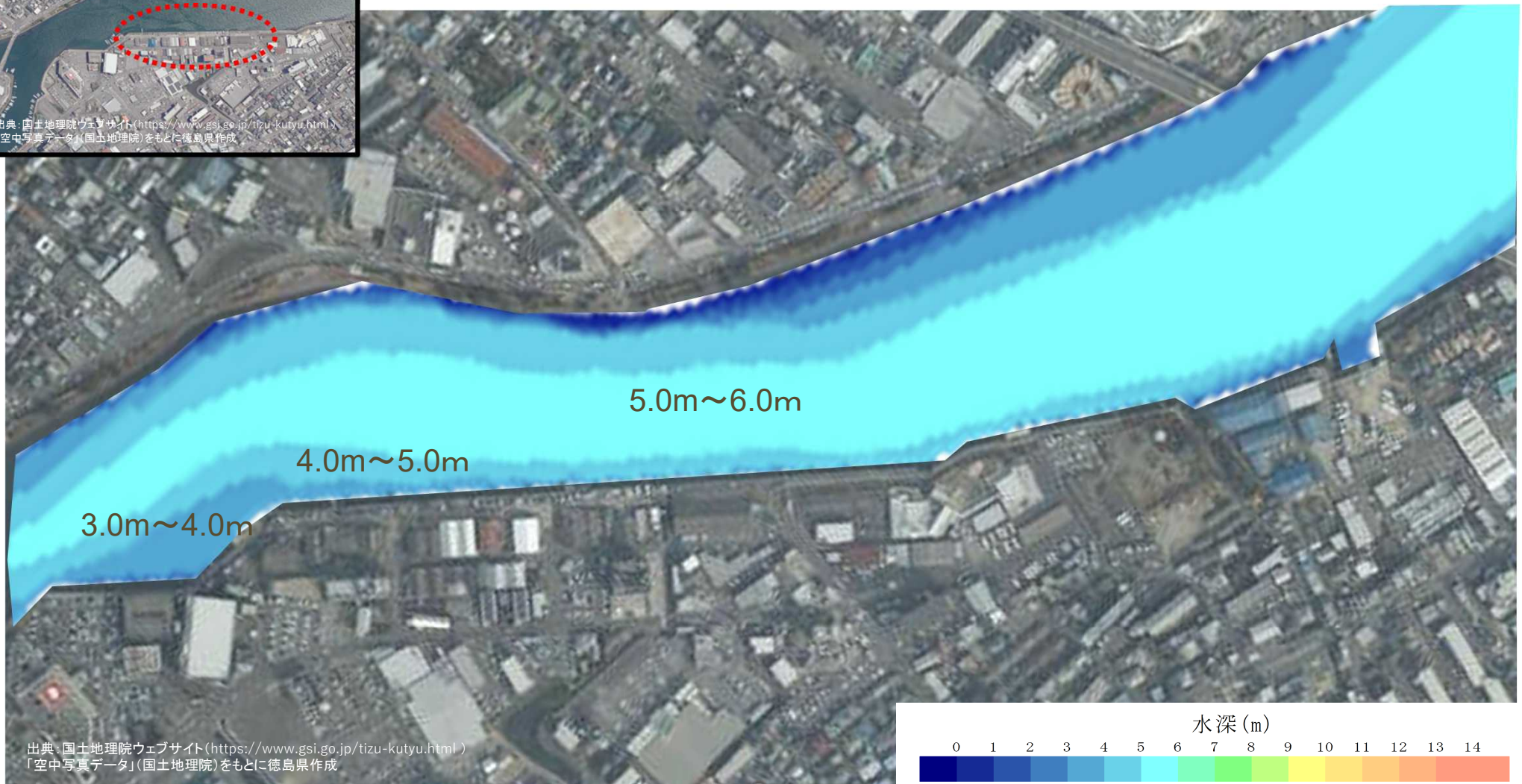
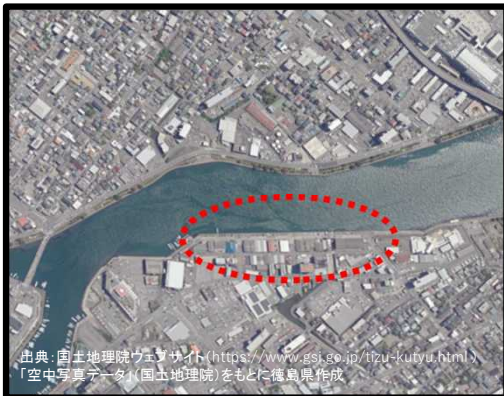


3. 係留施設の候補地について

③万代中央埠頭水域

2.水 深

- ・水深は3.0～6.0m
- ・岸壁付近の水深も深く、ほとんど浚渫の必要無し
- ・クルーザーヨット係留に必要な水深が確保されている



3. 係留施設の候補地について

③万代中央埠頭水域

現状



1. 静 穏 度

荒天時には係留困難

2. 水 深

3.0～6.0m

3. 背 後 地

ウォークアブルな空間づくりや水辺の倉庫群を利用した賑わい施設と連携し**ビジターバースなどの整備に合わせたまちづくり**
中心市街地に近く地震時の2次被害が懸念されるため、常時係留には不適

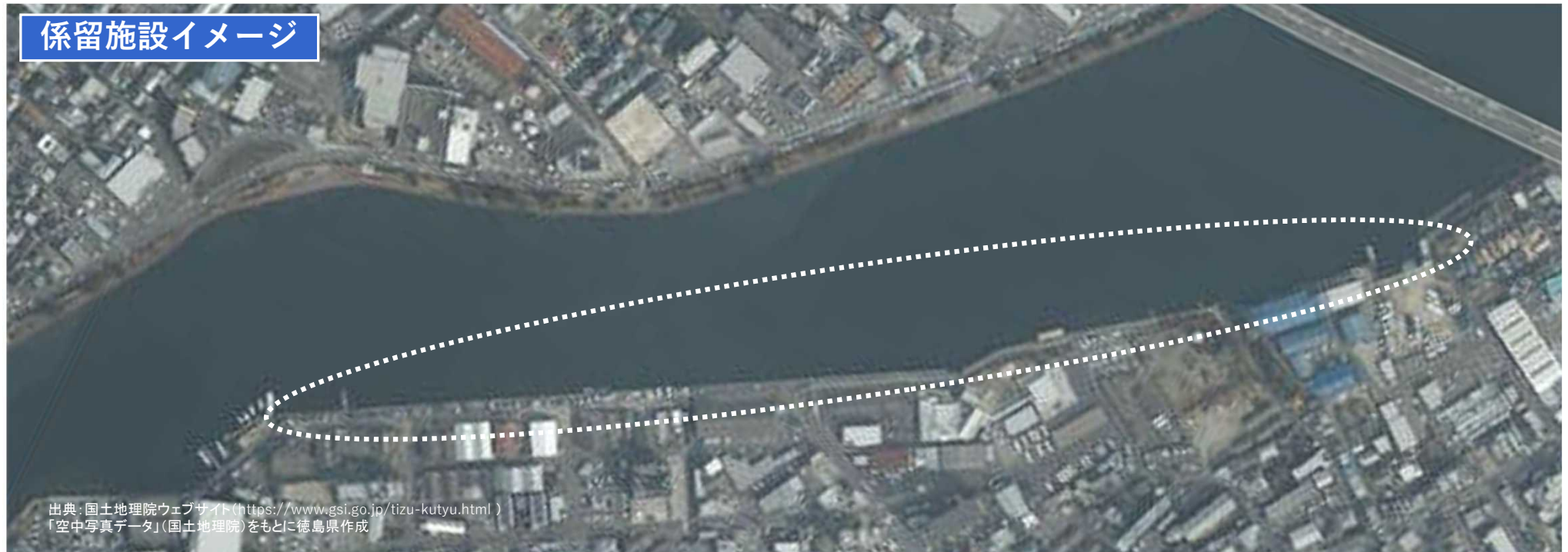
4. 収容可能隻数

約20～100隻

5. 整備期間

港湾計画に施設を位置づけて、ニーズに合わせて整備

係留施設イメージ



3. 係留施設の候補地について



水域①：沖州マリンターミナル前

水域②：津田第2水面貯木場跡

水域③：万代中央埠頭水域

	【放置艇対策】としての係留施設		【にぎわいづくり】のための係留施設
	水域①：沖洲マリンターミナル前	水域②：津田第2水面貯木場跡	水域③：万代中央埠頭水域
1. 静 穏 度	平常時は問題なし 荒天時には係留困難	良好な静穏度を確保	荒天時には係留困難
2. 水 深	1.0～7.0m	2.0～3.0m	3.0～6.0m
3. 背 後 地	周辺の賑わい施設や開発との連携 マリンターミナルの有効活用	賑わい施設無し 駐車場有り	ウォーカブルな空間づくりや 水辺の倉庫群賑わい施設と連携
4. 収容可能隻数	想定船舶諸元(L=9m B=3.1m 水深2.2m) 最大400隻程度	想定船舶諸元(L=9m B=3.1m 水深2.2m) 最大約300隻程度	想定船舶諸元(L=9m B=3.1m 水深2.2m) 約20～100隻
5. 整備条件	港湾計画変更手続きが必要 外郭施設整備が必要	静穏度が確保され背後地もあるため 短期間で整備可能	港湾計画に施設を位置づけ、 民間の開発を後押しする
6. メリット	収容可能隻数が多く、 係留施設の箇所として有利	収容可能隻数が多く、 係留施設の箇所として有利、 短期間で整備可能	背後地賑わい施設の発展に寄与 ビクターバース等に有利
7. デメリット	防波堤整備が必要なため 整備に時間がかかる	埋立予定地のため 恒久的な利用は不可	市街地に近く、 防災の観点より常時係留は不可